ホームページのご案内

和弘食品のWEBサイトでは、IR情報やラーメン・外食向けレシピ情報など当社に関する各種情報を発信しています。

和弘食品 検索

http://www.wakoushokuhin.co.jp/

http://www.ramensoup-tare.com/

株主の皆さまの声をお聞かせください

下記ＵＲＬにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます

http://www.e-kabunushi.com
アクセスコード　2813
いいかぶ　検索

空メールにより URL自動返信　kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からも アクセスできます　ＱＲコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のＱＲコードからもアクセスできます。

e-株主リサーチ

※本アンケートは、株式会社 a2media（エー・ツー・メディア）の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
（株式会社 a2mediaについての詳細　http://www.a2media.co.jp）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。
●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL：03-5777-3900（平日 10:00～17:30）MAIL：info@e-kabunushi.com

WS 和弘食品株式会社
北海道小樽市銭函3丁目504番地1　http://www.wakoushokuhin.co.jp/

VEGETABLE OIL INK
FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080
UD FONT

WS 和弘食品株式会社

第53期 中間報告書

2015年4月1日 ▶ 2015年9月30日

目 次

▶ トップインタビュー …… P1
▶ 決算ハイライト …… P2
▶ 事業内容のご紹介 …… P3
▶ 製品形態別売上概況 …… P4
▶ 米国子会社について …… P5
▶ 四半期連結財務諸表 …… P7
▶ 会社概要／株式の状況 …… P9
▶ 株主メモ／株主優待のご案内 … P10

JPX 東証JASDAQ上場
証券コード：2813

トップインタビュー

「本物志向」・「天然志向」・「健康志向」を基本に少量多品種短納期生産に磨きを掛け、高付加価値の商品作りとお客様満足度の向上に努めてまいります。

2015年12月
代表取締役社長　和山　明弘

2016年3月期の上半期の業績及び今後の課題について

主に成長戦略の礎となる国内事業が、外食・中食の業務用調味料市場の開拓、拡大により伸長し、売上高が前年同期比17.6％増の34億15百万円となりました。また、利益面におきましても、営業利益が前年同期比44.2％増となる77百万円を確保し、期初の業績予想を上回る結果を残すことができました。

前期下半期からの売上高が好調な要因として、豚骨・鶏ガラなどのダシを炊き出す工程、オイルのシーズニング工程など他の業務用調味料メーカーには真似し難い当社特有の工場設備を活用した差別化商品が既存・新規のお客様から高い評価をいただいており、新たな商談に繋がっています。今後も独創的な高付加価値商品作りに力を入れ、拡販に注力していく考えです。

また、喫緊の課題として、急速に拡大した受注に伴う生産量増加に耐えられる生産体制の整備、外食・中食業界の大手企業との取り組み増加に伴い、要求レベルが高まる品質への対応など、量・質両面の向上へ社内体制の強化にも力を入れていきます。

米国子会社の状況及び今後の展望について

当上半期に現地工場の建物工事・生産設備の設置工事を終え、行政による検査も完了し、本格稼働に向け現在テスト稼働中です。

工場設備の概要ですが、生産設備としては、液体・ペーストなどの調合設備に加え、ガラスープ製造用の抽出設備、オイルのシーズニング用設備を備えています。また、充填設備は、業務用充填機、ビン詰用充填機、小袋用充填機を設置しており、規模は小さいものの機能的には北海道工場とほぼ同様となります。

この工場では、日本国内と同様に、ラーメンスープなどを手始めに、小ロットでお客様のオーダーメイドの調味料製造を行っていきます。現地では、工場稼働を見据えて米国、カナダの主要都市で営業活動を行って来ましたが、米国には、当社のように小ロットで多品種の調味料の製造を行う企業がほとんど無いためにラーメン専門店を中心に積極的なサンプルワークを行った結果、既に数多くの商品で引き合いがあります。

米国のラーメン関連市場は急速に拡大しており、ラーメン専門店の数は、3年前と比較して倍増の勢いです。また、多店舗展開を目指す企業の増加や専門店以外の飲食業態でのラーメンメニューの導入も急速に増えつつあり、業務用ラーメンスープへの需要は、今後ますます増えていきます。また、ラーメン以外の日本の外食・中食企業の米国進出計画も目白押しで、この分野でも大きな需要が見込まれます。

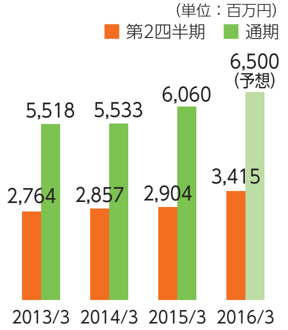
株主の皆さまへのメッセージ

2016年3月期は、国内事業については好調な流れを継続し、安定的成長が果たせるビジネスモデルへの転換を進めていきます。また、米国事業については、良好な市場環境を背景に一刻も早く現地製造・販売を軌道に乗せ、来期に向けた足掛かりを築きたいと考えています。

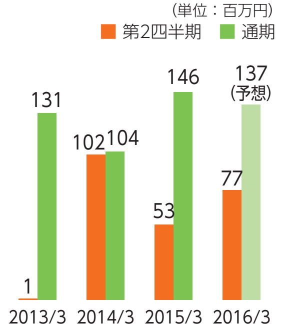
当社グループは3～5年後の利益成長ステージに向け、着実に歩みを進めております。その成果にご期待いただくとともに、末永くご支援いただきますようお願い申し上げます。

決算ハイライト

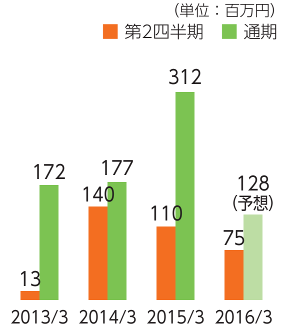
売上高　34億15百万円



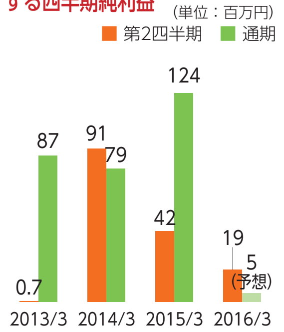
営業利益　77百万円



経常利益　75百万円



親会社株主に帰属する四半期純利益　19百万円



事業内容のご紹介

お客様に合わせたオーダーメイド・PB製品をご提案します。

　当社グループは北海道の新鮮な食材をもとに、スープ、たれ、天然エキスとブイヨンを作り出す、業務用調味料の専門メーカーです。
　主にお客様ブランド名（PB）商品製造に特化しており、その味は数々の食品メーカーやホテル、レストラン、スーパーマーケット（SM）、コンビニエンスストア（CVS）等を通じて全国に広く浸透しております。
　今後も、「高付加価値な商品作り」「食の安全と安心」を目指すとともに、少子高齢化の進行などによる国内市場の将来的な縮小予測に対応すべく、海外市場への積極的な展開を図ってまいります。

〈PB商品開発の流れ〉

ヒアリング・商談 → **サンプル試作～提出** → **サンプル味確認～改良** → **PB商品決定 製造～出荷**

ヒアリング・商談：担当者がお客様の要望する商品（目標スペック、希望コスト、商品形態等）についてお伺いします。

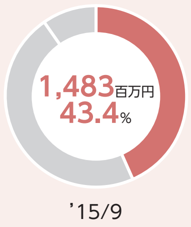
サンプル試作～提出：サンプルを試作し、ご提示いたします。

サンプル味確認～改良：サンプルをご確認いただき、お客様との相談を繰り返しながら、ご要望に合った商品の完成を目指します。

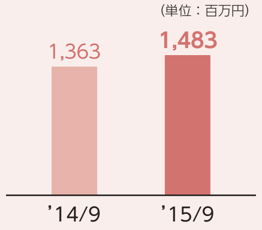
PB商品決定 製造～出荷：お客様ご要望の商品を、ご希望の納期にお届けいたします。（決定から納期は2週間が目安です）なお、必要に応じて製造工場で、製造立会いをいただくことも可能です。

製品形態別売上概況

別添用スープ

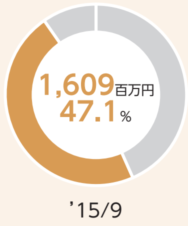


8.8 %増

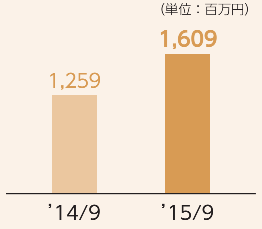


　主に内食産業向け（袋めん付属スープ等）、中食産業向け（CVS向け調理麺付属スープ・めんつゆ等）で使用される形態です。
　本格的な専門店の味をご家庭にお届けすることをモットーに味作りをしております。

業務用スープ

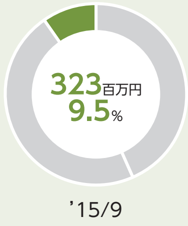


27.7 %増

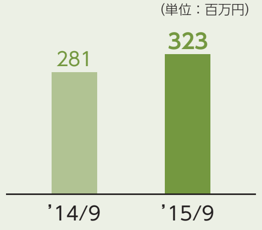


　主に中食産業向け（SMの惣菜バックヤード等）、外食産業向け（ラーメン店、レストラン、居酒屋等）で業務用として使用される形態です。
　本格的な専門店の味の再現や仕込み作業軽減等、数多くの企業・繁盛店様のご要望やニーズに沿った製品作りを心掛けております。

天然エキス・商品等



14.7 %増



　北海道の新鮮素材を独自の製造技術により精製した天然エキスは、原料として数多くの製品に取り入れられている他、外販もしております。
　また、商品等もこの項目に含めて表示しております。

米国子会社について

カリフォルニア州ロサンゼルスの南東部に、2012年に子会社（WAKOU USA INC.）を設立。2015年9月には工場が竣工し、現在本格稼働に向けテスト稼働中です。

カンパニーサインは、WAKOUの頭文字である【W】字の形にウェーブした『麺』と大海の『波』の上に『スープ』をイメージした5つの白丸を配して5大陸（世界）を表し全体を星条旗の雰囲気にまとめることで、米国から世界へ海を超えて広げていくという夢をカタチにしました。このカンパニーサインには、私たちの夢と願いが詰まっています。

当社グループでは、ラーメンを世界に広げようとの願いを実現するために、多方向からの調査や検証をもとに、米国にて現地生産することを決定しましたが、米国の法律や習慣など様々な壁を乗り越えてようやく工場の完成に漕ぎ着けることができました。

この工場では北海道工場と同じように、豚骨や鶏ガラ、野菜類を炊き出したラーメンスープにとってなくてはならない『ガラスープ』を抽出し、濃度や風味を調節した『ガラスープベース』を製造したり、これらを配合してお湯で薄めるだけで本格的なラーメンを楽しめる『オールインワンタイプラーメンスープ』など、米国でラーメンを作っている人達が求めてやまなかった商品を作ることができます。

また、日本と同じように、少量多品種短納期生産対応により、米国でもお客様のご期待に応えられるメーカーとして活動してまいります。

米国農務省（USDA）の認証取得が可能な、ラーメン等向けガラスープの抽出・調味料類配合・充填を一連の操作で行える米国でも珍しい（ラーメン）スープ類専門工場です。

最新機能を装備し、長時間の撹拌・炊き出しにも対応出来るので専門店と同等品質の再現が可能になりました。

また香味野菜類を高温でシーズニング可能な設備も併設しましたので、サッポロ風に強く炒めた野菜の香りも再現できます。

南カリフォルニアは、地理的には砂漠に近い環境で水資源が慢性的に不足しているので、水資源保護の観点から熱源用の水蒸気は凝縮水を回収して再利用する還水式のボイラーを選定し、燃料もエコな天然ガスを使用しています。

貴重な水を無駄にしないため、調合タンクの冷却水は循環式として別に用意したチラーユニットで常に効率よく冷却します。

また、エア駆動式の機器類を増やす等、省エネにも留意、これらの機器類は信頼性の点から日本製を選択しています。

また各部屋間のコンタミ防止の観点からも、アメリカ食品医薬品局（FDA）や米国農務省（USDA）に対する衛生面での配慮からも、場内の洗浄にぬかりはありません。

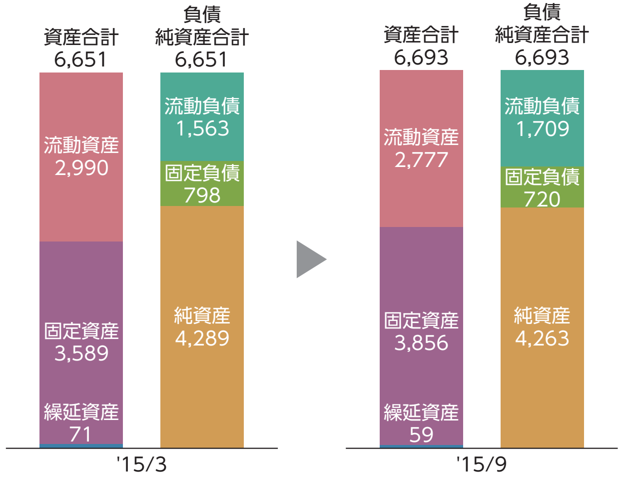
将来は、生産量増加を想定、生産機器類は倍増することが可能な空間を準備してあります。

四半期連結財務諸表

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結貸借対照表の概要

（単位：百万円）



総資産

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末に比べ41百万円増加し6,693百万円（前連結会計年度末比0.6%増）となりました。これは主に、現金及び預金の減少371百万円があったものの、受取手形及び売掛金の増加189百万円及び建設仮勘定の増加293百万円によるものです。

負　債

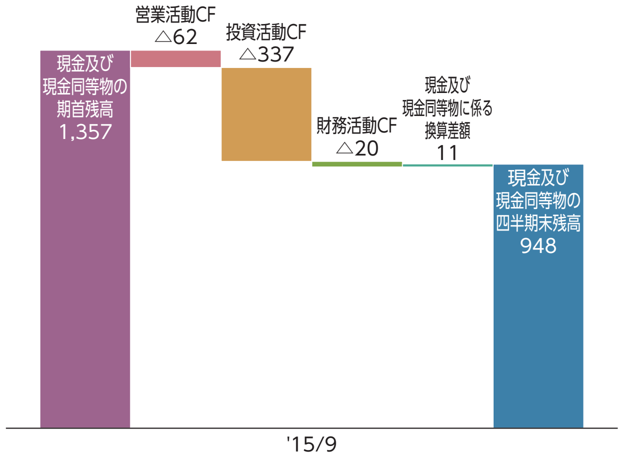
当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べ67百万円増加し2,429百万円（前連結会計年度末比2.9%増）となりました。これは主に、未払法人税等の減少126百万円があったものの、買掛金の増加139百万円及び短期借入金の増加160百万円によるものです。

純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べ25百万円減少し4,263百万円（前連結会計年度末比0.6%減）となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上19百万円があったものの、その他の包括利益累計額の減少4百万円及び配当金の支払40百万円によるものです。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要

（単位：百万円）



営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果使用した資金は62百万円（前年同期に比べ46百万円増加）となりました。これは主に、仕入債務の増加139百万円及び減価償却費112百万円があったものの、売上債権の増加189百万円及び法人税等の支払額181百万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

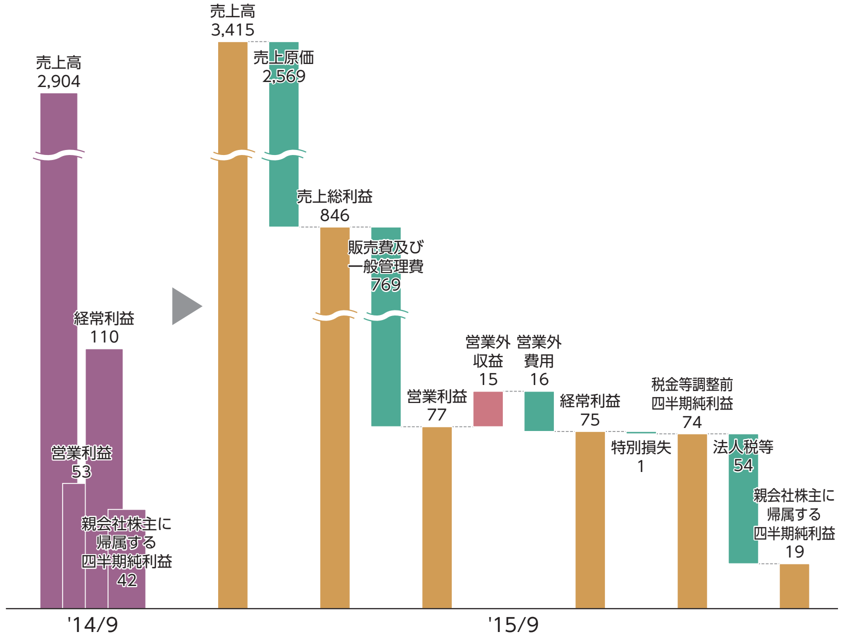
当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果使用した資金は337百万円（前年同期に比べ44百万円増加）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出323百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果使用した資金は20百万円（前年同期は378百万円の獲得）となりました。これは主に短期借入れによる収入160百万円があったものの、長期借入金の返済による支出106百万円及びリース債務の返済による支出33百万円、配当金の支払額40百万円によるものです。

四半期連結損益計算書の概要

（単位：百万円）



【売上高・売上原価・売上総利益】

売上高は、主力の別添用スープが微増、拡販に注力している業務用スープが大幅伸長し、前年同期比17.6%増の3,415百万円となりました。

売上原価は、原材料や電力等の値上げがあったものの、売上高増加率とほぼ同等に抑えられ、前年同期比17.2%増の2,569百万円となりました。

以上の結果、売上総利益は前年同期比18.6%増の846百万円となりました。

【営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益】

営業利益は、米国子会社の現地生産に向けた準備費用等の増加があったものの国内事業好調により、前年同期比44.2%増の77百万円、経常利益は為替差益が減少した影響により、前年同期比31.2%減の75百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比53.5%減の19百万円となりました。

通期の見通し

平成27年10月29日に当初最終赤字予想であった通期見通しを最終黒字に上方修正し公表いたしました。修正要因は、国内事業の売上好調により利益が上乗せされる見込みによるものです。引き続き、好調な売上を維持できるようグループ一丸となって努力してまいります。

売　上　高	65億00百万円
営　業　利　益	1億37百万円
経　常　利　益	1億28百万円
親会社株主に帰属する当　期　純　利　益	5百万円

会社概要 (平成27年9月30日現在)

会　社　名	**和弘食品株式会社**
(英文名称)	Wakou Shokuhin Co., Ltd.
設　　　立	昭和39年3月30日
資　本　金	1,413,796千円
本社所在地	北海道小樽市銭函3丁目504番地1
従 業 員 数	160名（連結171名） 従業員の他に臨時社員等を雇用しており、年間の平均雇用人数は70名であります。

取締役及び監査役

【取締役】

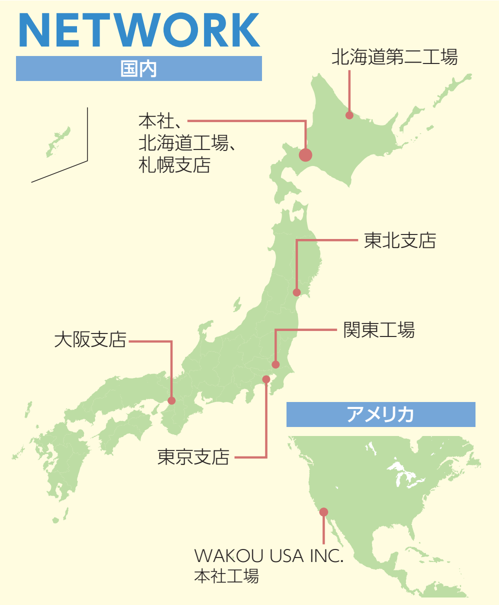
代表取締役社長	和 山 明 弘(生産本部管掌)
専 務 取 締 役	中 島 康 二(営業本部長兼営業部長兼経営企画室長兼提携業務推進室長兼海外事業担当)
常 務 取 締 役	市 川 敏 裕(管理本部長兼経理部長)
常 務 取 締 役	後 藤 政 弘(品質保証室担当兼CVS担当 WAKOU USA INC. President)
取　　締　　役	城 畑 孝 康(ものづくり改革推進室長)
取　　締　　役	久 松 幸 雄

※久松幸雄氏は、社外取締役であります。また、久松幸雄氏は、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

【監査役】

常 勤 監 査 役	鈴 木 雅 志
監　　査　　役	森 本　　清(森本清税理士事務所所長)
監　　査　　役	森 川 潤 一(森川公認会計士事務所所長　北海道中央バス株式会社社外監査役)

※森本清氏、森川潤一氏は、社外監査役であります。また、森本清氏及び森川潤一氏を株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。



株式の状況 (平成27年9月30日現在)

発行可能株式総数	16,600,000株
発行済株式の総数	9,493,193株
株　　主　　数	2,234名
総株主の議決権の数	8,178個

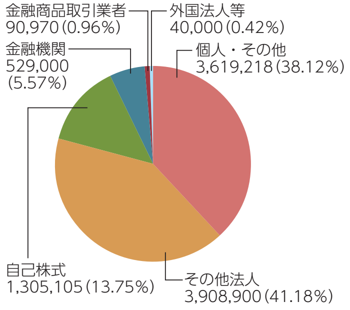
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社和山商店	2,074	25.33
日清オイリオグループ株式会社	1,600	19.54
水元 公仁	239	2.92
和山 明弘	207	2.53
株式会社北陸銀行	190	2.32
株式会社北海道銀行	142	1.73
中川 なを子	80	0.99
日本生命保険相互会社	80	0.98
斎藤 大洲	57	0.70
和弘食品社員持株会	54	0.66

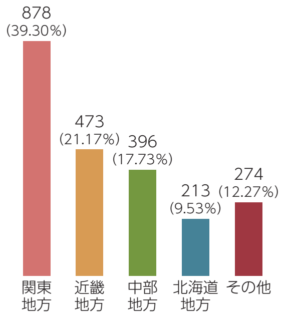
※1. 当社は、期末日現在自己株式を1,305,105株所有しております。
2. 持株比率は自己株式（1,305,105株）を控除して計算しております。

株主構成

[所有者別(株式数)(株)]



[地域別(株主数)(名)]



株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 TEL 0120-232-711（フリーダイヤル）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により当社ホームページ（http://www.wakoushokuhin.co.jp/）に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
証券コード	2813（東京証券取引所）

【お知らせ】

ご注意

①株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

②特別口座に口座をお持ちの株主様の各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎいたします。

③未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主優待のご案内

当社では、株主様への利益還元、サービスの一環として株主優待制度を導入しております。

1）1単元以上10単元未満をご所有の株主様に、2,000円相当の北海道産品の詰め合せを贈呈いたします。

2）10単元以上をご所有の株主様に、5,000円相当の北海道産品の詰め合せを贈呈いたします。